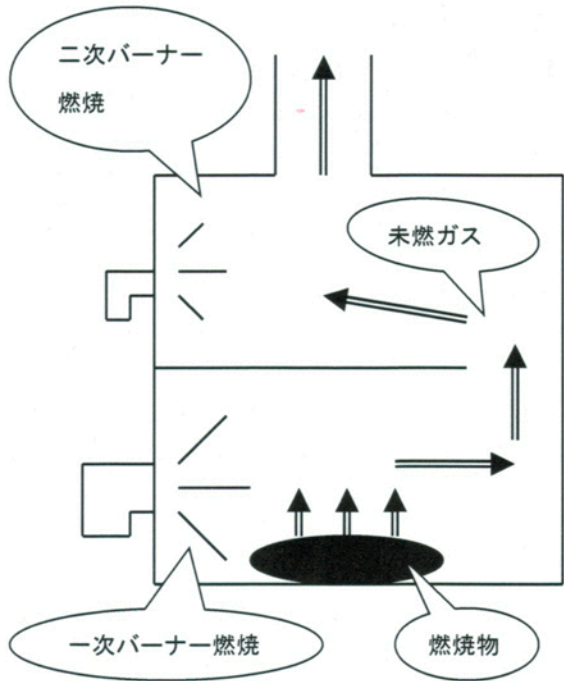


# イメージ図

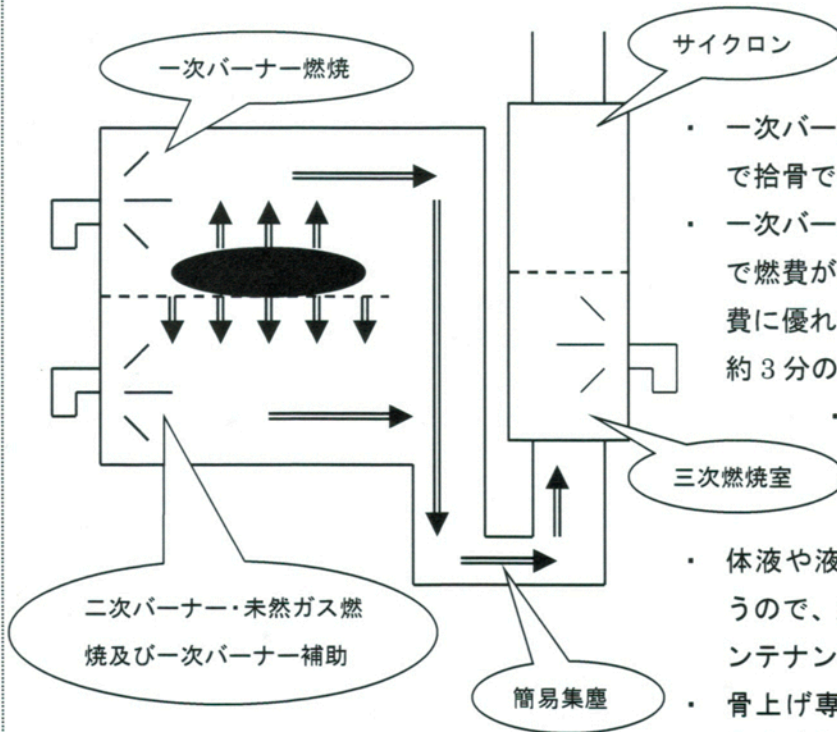
## 従来の火葬炉（トロッコ式の場合）



- ・ 一次バーナーが大きく、小さな遺骨を吹き飛ばしてしまう。
- ・ 一次バーナーが大きいため、燃費が良くない。
- ・ 上部に煙突があるため、ガスの流速が早く、炉内滞留時間が短く、未燃ガスのまま排出しやすい。
- ・ 遺体を上からバーナーで火葬するので、遺体の下に体液や液状の体脂肪が溜まりやすく、不潔感があり、また清掃も困難。
- ・ 遺体を直接炉床に載せた場合、炉床の熱を下げるのに時間がかかり、作業効率が悪い。
- ・ 炉の構造上、密閉型にするのが不可能に近く、未燃ガスが炉の外部に漏れる元となる。

※「未燃ガス」とは煙と臭気の原因となるガス

## 高気密相対燃焼方式の火葬炉（3次燃焼室・サイクロン付タイプの場合）



- ・ 一次バーナーが小さいので、小さな遺骨まで拾骨できる。
- ・ 一次バーナー、二次バーナーとも小さいので燃費が従来の炉の約半分程度であり、燃費に優れている。三次燃焼室を付設しても約3分の2程度。
- ・ 下部煙突からガスを排出するので炉内滞留時間が長く、未燃ガスを排出することが少ない。
- ・ 体液や液状の体脂肪は完全燃焼してしまうので、清潔で美観に優れ、且つ炉内のメンテナンスが楽である。
- ・ 骨上げ専用プレートを使用するので作業効率が良い。